



触れる。味わう。育む。 鶴ヶ島の農業

問合せ先 産業振興課農政担当

普段何気なく食卓に並ぶ様々な野菜たち。私たちが選び、食べる、その一つひとつの食材が、私たちの体を作ります。
鶴ヶ島でもたくさんさんの野菜が栽培されています。地元野菜は魅力たっぷり。健康な暮らしのお供に、『鶴ヶ島産』を選んでみませんか？

生産者がわかる
安心

地元野菜の魅力

生産者が身近
新鮮

多品目栽培
豊富な品目

鶴ヶ島の農業は、消費者が身近にいるという利点を生かし、鮮度が重要な野菜を中心に、多品目の農産物を生産する農家が多いのが特徴です。

生産された農産物は、直売所やスーパーマーケットなどに出荷されるだけでなく、学校給食や保育所給食の食材としても使われています。子どもの健康な成長のために、安全性の高い食事は欠かせません。

鶴ヶ島産の農産物は、常に生活の身近なところにあり、私たちの「安心」と「健康」を支えています。

「鶴ヶ島産」は、ここで買えます！

- ・JAいるま野鶴ヶ島農産物直売所
高倉84-1 ☎285・3433
営業時間 9時～17時（金曜日定休）
- ・JAいるま野カインズ鶴ヶ島店農産物直売所
三ツ木新町1-1-13 ☎287・6646
営業時間 9時～20時（元日定休）
- ・市内各スーパーマーケット



しかし、全国的に、農業従事者の高齢化や担い手不足が大きな課題となっており、鶴ヶ島も例外ではありません。企業や法人も農業の新たな担い手であり、農業参入を希望する企業などには、市が農地を確保するなど全面的に協力しています。
市は今後も、農業に携わる皆さんの声を聴き、寄り添い、共に考えながら、鶴ヶ島の農業を守っていきます。

市役所 朝市



農業者の支援や地場産農産物のPRを目的に、毎月第2土曜日に開催しています（今月の詳細は20ページ参照）。
朝市の大きな目的は、皆さんに、鶴ヶ島の農業者と農産物を知っていただくことです。
生産者と消費者の交流により、生産者は消費者ニーズを把握することができず。また、皆さんに地元の新鮮な農産物を消費していただくことで、「地産地消」の取組を推進しています。



農業交流 センター



農業交流センターでは、市民農園の空き区画や体験農園で「栽培体験講習」を開催しています。受講生の中には、新たに市民農園を借りる方もいます。その他、随時、収穫体験や講習会など、農業を身近に感じてもらうためのイベントを開催しています。

よく聞かれど…

どうして「地産地消」がいいの？

- ☀️ 消費者ニーズに対応した生産により、食品ロス問題の解決につながる
- ☀️ 輸送距離が短縮できるため、鮮度が良く、地球温暖化などの環境問題にも貢献できる
- ☀️ 安心・安全な給食を提供でき、誰によってどのように作られた食材からできているのかという食育の重要な機会になっている
- ☀️ 食料自給率が向上する
- ☀️ 地域の食材を活用することで、伝統的な食文化の継承につながる

観光 農業



太田ヶ谷・三ツ木地区には、ブルーベリーやイチゴの摘み取りができる観光農園が開設されています。圏央鶴ヶ島ICから近いためアクセスも良く、市外からも人を呼び込めるエリアとして期待が高まっています。
令和2年8月には、若手農業者を中心に「つるがしま観光農園協会」が発足し、観光農業を盛り上げる様々な取組が行われています。これまでに、キウイフルーツの栽培やサツマイモの栽培などを始めています。昨年

度、サツマイモは850kg収穫することができ、カレーやサラダなど、学校給食の食材としても使用されました。収穫体験も行っており、お子さん連れのファミリー層に、特に人気です。多くの人に鶴ヶ島の農業や農作物に触れてもらう機会を作るため、これからも取組は続いています。

私たちが「農業」を選んだ理由

古川 会社を定年退職した後、この先どうしようかなと考えていて、実はカナダに移住したいという思いがあったんです。妻に「カナダで何をするの?」と聞かれて、ふと考えました。そうだ、何かやることを考えなくてはと。それで農業をやってみようと思い立ちました。

南埜 自分は、定年を迎えて仕事を終えるのではなく、体が動かなくなるまでずっと続けられる仕事がしたくて、農業を選びました。農業は、失敗したら、次どうするかを自分で考えて、すぐ反映できる。やってみて、それが収入になれば自分の力だし、うまくいかなければ自分のせい。全部自分の責任でできるというのが魅力ですね。

とき、45歳で体を壊しました。そのときすべてをゼロにして考えたんです。考え方を変えたら仕事も結果が出るようになり、休みの日には自分の時間を作りたいと思うようになりました。それで市民農園を借りて始めたのですが、自分は食料関係の仕事をしていたので、自信があったんです。それがあるとき、「そんなのは通用しない。本気で農業をやるならしっかりと勉強するべきだ」と言われて、埼玉県の農業大学で1年間学びました。

南埜 指導農家さんが隣の畑なので、わからないことは逐一聞いて、たわいもない話も含めてよく話しています。自分で見て、聞くのが一番早いです。もちろん勉強もすごく重要ですが、経験には絶対になかなわない。地質によって肥料の量なども全然違うと思うので、地元の人がやっていることをまねするのが一番よいと思っています。

古川 近所の農家さんがよく様子を見に来てくれるのですが、「次何植えるの?」と聞かれて、自分の考えを答えると、「うーん、それはなあ…」などと言われたりします。アドバイスが、学校の先生のように「○○しなさい」ではないんです。「うーん、それはなあ…」と言われると、「どうしてこれを植えちゃいけないんだ?」と、自分で考えるわけです。これが自分にとって重要ですね。

山口 本気で農業をやってきた人というのは、自分に厳しく、同時に人に優しい。私はそう感じています。

志賀 一番大事なことは、野菜の作り方というより、作っている人の人間性や生き様を学ぶことなのではないかなと思います。

古川 最近気候が変わってきていて、先輩方の常識も通用しなくなっています。教わったことを絶対的な基本としつつ、それをどう応用していくかというのが、自分たちがうまくやっている上で大事なところだと思います。



みなみのひろたか
南埜弘高さん
(令和3年4月入塾)

の農業担い手育成塾(※)



様な担い手を育成する塾。いるま野農業協同組を図り、新規就農者の育成に取り組んでいます



しが だいすけ
志賀大輔さん
(令和4年4月入塾)

山口 売り方など、お客さんとの接点を学べますね。

農業のやりがい、そして難しさ



ふるかわとしゆき
古川敏幸さん
(令和3年4月入塾)

新規就農目指して
鶴ヶ島で実習中!

いるま地域明日

塾



談

座

※ 新規就農希望者の円滑な就農を促進し、多
合・埼玉県・市・農業委員会・指導農家と連携



やまぐちまさひろ
山口昌宏さん
(令和3年4月入塾)

南塾 試行錯誤して、考えたとおりにできるところが面白いです。もちろん失敗もありますけど、結果が出たときは一番楽しいですね。みんなが出せない時期に出そうと思い、ニンジンや小松菜の遅まきを試したりしましたが、種まきの時期とかは、やっぱり難しいです。

古川 農業って体力がいると思われるじゃないですか。実際やってみて、やっぱり体力なんですよね(笑)。僕らみたいな新規就農では機械への投資も限界があって、体力がないと無理です。**山口** 農業は、新しいことにチャレンジしやすいです。言ってみれば、一人社長ですよ。これが精神的に非常に良くて、朝から晩まで時間を忘れてしまうくらいです。何より、自分が生

産している、作っているんだという喜びがあります。全部自分に返ってくるので、すごくやりがいがあります。

古川 サラリーマン時代は、自分の仕事の成果は賃金で推し量ることができました。農業を始めて、自分の成果を何で判断するのか大きな疑問だったんです。絶対的に言えるのは、賃金ではないんですよ。まだ答えは出ていないのですが、周りの人との関わり合いなのではないかなと最近思っています。それが自分の評価の大部分を占めるのではないのでしょうか。たとえばサラリーマンなら、マンシヨンの隣の人が何しているかなんて首を突っ込んではいけないうんですよ。それはタブーであって、人間関係がおかしくなる。と

私たちが
教えています!

塾生を支える指導農家



まちだよしお
町田義男さん
(指導農家)

私は南塾さんの指導を行っています。基本を守ってよく頑張っています。「農業は人間の生命のもとになる食料を作ることであり、人間の基本だと思った」と語るのを聞いて、指導を引き受けました。根性があると思います。塾生はまず年間の計画を立てて、それに沿って作付けしていくので、様子を見ながらアドバイスをしています。

昨年年度は、トマトが割れてしまっただけで出荷できないという

こともありました。枝豆も虫が入ってしまったりと、やはり有機栽培は虫の発生が多く、無農薬の難しさを感じています。よい経験をしたと思うので、今年度は、生産を増やしたいですね。

最近、農家の後継者不足が深刻になってきていますよね。だんだん農地が空いてきてしまっただけで、作物の植わっていない、ただ耕しているだけの土地が多いです。こうして、鶴ヶ島で農業をやってみようという人が来てくれるのは、とてもよいことだと思います。そういった方たち同士で話し合っているのを見てほしいです。ぜひ頑張ってください。

インタビュー